



# 市議会だより

発行  
各務原市議会

岐阜県各務原市那加桜町1-69  
電話058-383-2001

編集  
市議会だより編集委員会

かかみがはら



市民清掃（7月3日・新境川）

## 6 月 定 例 会

目 次	
主な議案説明	2
審議結果	3
委員会審査	4
委員会市内調査報告	5
市政を問う 一般質問	
災害への備えは	6
脱原発への考えは	8
市民の声、議会素描	10

# 那加中学校体育館を改築

## 建築工事3億3390万円で着工へ

平成23年第4回定例会(6月定例会)を6月6日から6月29日の24日間の会期で開催しました。  
 今期定例会に市長から提出された議案は、平成23年度一般会計補正予算をはじめとする10案件で、委員会、本会議を経て、いずれも原案のとおり可決・同意しました。また、議員から議員派遣についての議案が提案され、原案のとおり可決しました。



那加中学校体育館の完成予想図

### 工事請負契約

#### ○那加中学校屋内運動場改築工事(建築)

第4回定例会に市長から提出された議案は、  
 ○予算の補正 1件  
 ○人事の案件 1件  
 ○条例の改正 1件  
 ○工事請負契約の締結・変更 4件  
 ○市道路線の認定・廃止 3件  
 の合計10案件です。  
 主な議案内容は、次のとおりです。

一般競争入札により、3億3390万円で、大日本・協和特定建設工事共同企業体と工事請負契約を締結するものです。  
 ○(仮称)那加小網線右岸アプローチ橋上部工事  
 一般競争入札により、3億3075万円で、大日本・横建特定建設工事共同企業体と工事請負契約を締結するものです。  
 ○(仮称)各務原大橋下部工事(その3)の変更  
 大日本・市川・後藤特



建設中の(仮称)各務原大橋

### 平成23年度補正予算

定建設工事共同企業体との工事請負契約の金額を759万2550円減額し、7億2950万7450円とするものです。  
 ○平成22年度木曾川各務原大橋下部工事の変更  
 国土交通省中部整備局との委託契約の金額を1003万2000円増額し、1億8409万3950円とするものです。

動力消防ポンプ付水槽車購入の費用を計上したほか、住民基本台帳法の改正に伴う住民基本台帳システム改修事業など、当面の行政需要に対応するため、歳入歳出予算の補正を行うものです。  
 ○歳入の主なもの  
 ・国庫支出金 1029万1千円  
 ・県支出金 868万7千円  
 ・繰越金 1億8097万円  
 ○歳出の主なもの  
 ・住民基本台帳システム改修事業費 7875万円  
 ・(仮称)各務原大橋受託事業費 1003万1千円  
 ・小型動力消防ポンプ付水槽車購入事業費 4026万3千円  
 ・ナシヨナルトレーニングセンター事業費 1029万1千円  
 ・防災備蓄品を東日本大震災の被災地へ支援物資として拠出したことに伴う防災備蓄品購入費

# 審議結果

## (4月臨時会)

- 専決処分の承認(22年度一般会計補正予算(第8号)) …… 原案承認・全会一致
- 専決処分の承認(国民健康保険条例の一部を改正する条例(第3号)) …… 原案承認・全会一致
- 専決処分の承認(市税条例の一部を改正する条例) …… 原案承認・全会一致
- 教育委員会委員の任命(岩田重信氏) …… 原案同意・全会一致
- 選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙  
(委員 山田初代氏、丹羽龍夫氏、田口宗輔氏、浅野記子氏)  
(補充員 前田勝則氏、川瀬兼彦氏、若田壽美代氏、五十嵐理恵氏) …… 当 選
- 木曾川右岸地帯水防事務組合議会議員の選挙  
(各務英雄氏、三和由紀氏) …… 当 選

## (6月定例会)

- 23年度一般会計補正予算(第1号) …… 原案可決・賛成多数
- 教育委員会委員の任命(高根靖臣氏) …… 原案同意・全会一致
- 福祉センター条例の一部を改正する条例 …… 原案可決・全会一致
- 工事請負契約の締結((仮称)那加小網線右岸アプローチ橋上部工  
工事) …… 原案同意・全会一致
- 工事請負契約の変更((仮称)各務原大橋下部工工事(その3)) …… 原案同意・全会一致
- 市道路線の認定(市道稲932号線ほか2路線) …… 原案可決・全会一致
- 市道路線の認定(市道蘇北770号線) …… 原案可決・全会一致
- 市道路線の廃止及び認定(市道蘇北385号線ほか17路線) …… 原案可決・全会一致
- 工事請負契約の締結(那加中学校屋内運動場改築工事(建築)) …… 原案同意・全会一致
- 工事委託契約の変更(平成22年度木曾川各務原大橋下部工事) …… 原案同意・賛成多数
- 議員派遣の件(市議会だより編集に関する調査) …… 原案可決・全会一致

孝夫 一成、高島貴美子、足立 嶋一生、水野岳男、池戸 派遣議員 杉山元則、川 のため、議員を派遣するも りの編集に関する調査の 日の2日間、市議会だよ 都宮市に8月2日から3 栃木県さくら市と宇 関する調査

### 議員派遣

○市議会だよりの編集に 〇教育委員会委員の任命 教育長の高根靖臣氏の 任期が7月12日に満了す るため、再び同氏を任命 しようとするものです。

### 人事案件

8千円となります。 額は419億4994万 追加し、補正後の予算総 1億9994万8千円を 一般会計の予算規模は、 この結果、平成23年度 修費 1679万円 緑苑小学校体育館改 908万円

# 委員会審査



## 総務常任委員会

今期定例会で常任委員会に審査の付託をした案件について、6月23日、24日の2日間で、常任委員会を開催し、審査を行いました。

残土が近くで処分でき、処分費と運搬費が縮減できたためである。

### 平成23年度一般会計補正予算(所管分)

▼質疑 住民基本台帳法の改正に伴い、住民基本台帳システムをどのように改修するのか。

▼答 外国人登録法が廃止され、外国人住民は住民基本台帳に登録されることになり、約3500人の外国人住民が対象である。

現在、外国人には住民票がないので、平成24年3月までに仮住民票を作り、同年7月には住民票の発行ができるように住民基本台帳システムを改修する。

▼質疑 システム改修は国による制度改正が要因だが、市が全額負担する

残土が近くで処分でき、処分費と運搬費が縮減できたためである。

平成23年度一般会計補正予算(所管分)

▼質疑 システム改修の所要経費は、地方交付税で財政措置される予定である。

▼質疑 防災備蓄品を東日本大震災の被災地に援助したということだが、その内容は。

▼答 ブルーシート3400枚、集会用テント4張を提供した。

## 民生消防常任委員会

### 平成23年度一般会計補正予算(所管分)

▼質疑 法改正に伴う障害者自立支援システムの改修費用だが、国や県の補助はないのか。

▼答 県の障害者自立支援対策臨時特例交付金で98万8千円措置される。

▼質疑 購入予定の小型



小型動力消防ポンプ付水槽車(中濃消防)

動力消防ポンプ付水槽車は10tとかなり大きめだが、災害時に大きな車両が入れない場所では、どのように対応するのか。

▼質疑 災害現場に入れる車両や小型ポンプなどを利用し、中継を行う。

また、床下に換気扇を付け、湿気を外に出す仕組みを作る。

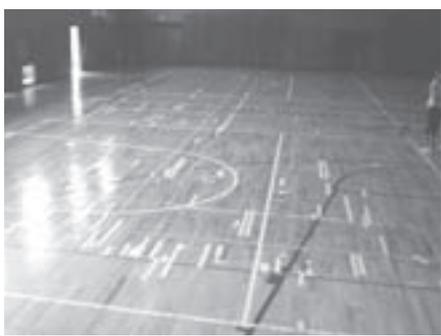
さらに、今ある排水ポンプの能力をあげるなどして、根本的な対策を行う。

## 経済教育常任委員会

### 平成23年度一般会計補正予算(所管分)

▼質疑 緑苑小学校体育館の床の改修工事はどのような内容か。

▼答 緑苑小学校体育館の敷地は、建設された当初からわき水が想定され



改修予定の緑苑小学校体育館の床

▼質疑 食育推進事業の

▼答 小児生活習慣病予防として、医師会の協力のもと、全小中学校で医師に話をしてもらい、小さいころから何を考えて



食育の授業風景 (川島小学校)

食事すべきかの指導を行ってきた。  
この取り組みを発表し、県内に広げていきたい。

建設水道常任委員会

平成23年度一般会計補正予算(所管分)

▼質疑 国土交通省に委託した(仮称)各務原大橋の小網側橋台工事の内容変更に伴い、業務委託料が増額補正されているが、その理由は。

▽答 当初、堤防道路は全面通行止めの予定だったが、その後の住民要望により、国土交通省の判

断で迂回路が設置されたためである。

▼質疑 迂回路はすでに完成しているが、予算の増額補正を伴う工事内容の変更を行う場合は、事前に議会承認が必要ではないか。

▽答 工事においては、途中で当初設計通りにできない様々な要因が発生し、その都度、発注者と施工者の間で指示書、協議書を交わしながら工事を進め、最終的に金額が決まった時点で精算をして変更契約するのが一般的である。

この件についても、平成23年3月時点で精算したところ、国土交通省から1003万円ほどの増額が生じるとの申し出があり、今回議会に補正予算を上程した。

現場の方は、5月、6月と一部工事を中断しており、補正予算議決後、国交省と変更契約を締結し、残りの工事分は7月に施工する予定である。

▼質疑 迂回路をつくる

というのは大きな仕様変更ではないのか。

▽答 迂回路は、本体を作る過程に生じる仮設行為であり、本体工事ではないため、軽微な変更だと判断している。

市道路線の認定(市道蘇北770号線)

▼質疑 県道長森各務原線の一部(おがせ街道の蘇原大島町から蘇原坂井町までの区間)が市道に移管されるが、その時期は。

▽答 議決後、県が側溝のふたや舗装の修繕を行い、市に引き継ぐ。

順調に行けば、平成24年度には市に完全移管される。



おがせ街道 (蘇原大島町)

常任委員会

市内調査報告

総務常任委員会

4月18日

○防災備蓄倉庫(尾崎小学校)

尾崎小学校に設置してある防災備蓄倉庫を視察し、防災資機材や備蓄食料などを確認した。

備蓄品により避難者が2日間ぐらいいは過すことが出来るが、災害時に資機材が使えないとか、物資が不足することも予想され、日ごろからの訓練や各家庭での備蓄が必要だと実感した。

○そらふれあいセンター「そらーら」

平成23年3月にオープンした蘇原地区のコミュニティセンターと子ども館、学童保育室、蘇原市民サービスセンターを収容した複合施設「そらーら」を視察した。

施設全体がバリアフリーで、乳幼児から高齢者まで安心して便利に利用できる施設である。

民生消防常任委員会

4月13日

○尾崎保育所

昭和51年に建設された尾崎保育所を視察した。

委員からは、施設の耐震強化や保育所の新たな場所へ建て替えの必要性、集会所が無いなどの意見があった。

施設の不便さは今後の課題であるが、職員の保育に対する熱意が伝わった。

○東海中央病院

渡邊病院長はじめ病院スタッフの説明から、中核病院として、市民病院的角色を果たす思いが感じられた。



防災備蓄倉庫 (尾崎小学校)

### 市政を問う 一般質問

6月20日、21日の2日間、一般質問を行いました。質問をした議員は次のとおりです。(発言順)

藤井国雄、吉岡健、横山富士雄、水野岳男、三丸文也、池戸一成、高島真美子、永治明子、足立孝夫、波多野こうめ、三和由紀、杉山元則

## 災害への備えは

### 地域防災力と防災意識の向上

▼問 災害対策の取り組みは。

▼答 これまで公共施設の耐震化の推進や災害情報スピーカーの設置、防災備蓄品の整備など災害対策を進めてきた。

今年度は、地域防災力と防災意識の向上のため、新たに次の事業に取り組む。

- ①自治会などを単位として地域で自主的に結成された自主防災組織の役員に対する防災講習会や地域の防災リーダー育成のための「防災ひとづくり講座」を実施する。
- ②災害時に一次避難所が開設される現地連絡所の副所長に自治会連合会長が就任し、行政と地域の

連携を強化する。

③全小中学校の児童生徒などに、家族との連絡方法や集合場所を相談して記入する「家族防災カード」を配布する。



家族防災カード

(※「家族防災カード」は、緊急時に必要な情報(氏名や血液型、電話番号など)を記入し、携帯

## 防災備蓄

することで、救援活動や安否確認などに役立ててもらうことを目的としています。市のホームページから印刷できます。

▼問 防災備蓄倉庫内の備蓄食料や防災資機材などは、どのような想定で備えているのか。

▼答 一次避難所となる全小学校と稲羽中学校の18カ所の体育館では、それぞれ280人から430人程度の避難者の受け入れが可能と想定しており、応急に対応する程度の食料と救助などに必要な資機材を備蓄している。

また、流通業者と流通備蓄協定を締結し、物資の確保も行っている。

なお、市では家族全員が3日間過ごせる食料や水を各家庭において備蓄するよう呼びかけている。

▼問 大災害時の停電対策として、各避難所に簡易的な太陽光パネルと蓄電池を組み合わせた電源システムを設置しては。

▼答 太陽光パネルを使った充電器には様々な機種があるが、小型で簡易なものを備蓄品の一つとして検討していく。

## 防災訓練

▼問 新たな取り組みである自主防災組織講習会とは何か。

▼答 講習会では、自治会長など自主防災組織の役員を対象に講義と訓練を実施している。各自治会での自主防災

訓練の実施率の向上や受講した役員が総合防災訓練で住民を指導するなど、地域の防災意識の向上につなげていきたい。

▼問 居住地付近の安全な場所を避難場所とし、食料や水の調達、対策本部や現地連絡所との連絡などを行う訓練をしてはどうか。

▼答 地域の実情に応じた実践的な訓練として、たいへん有効であり、積極的に支援していきたい。災害図上訓練などもあわせて、地域において、自主防災訓練としてぜひ実施してもらいたい。



自主防災講習会

### 避難所

▼問 避難所となる学校施設の安全性は。

▼答 一次避難所となる18小中学校の体育館は、平成24年度までにすべて耐震化が完了する。

また、耐震化にあわせて、バリアフリー化なども実施している。

▼問 土砂災害警戒区域内の避難方法と経路の検討を早急にすべきでは。

▼答 平成23年度末の警戒区域指定に合わせ、地元自治会と相談しながら、土砂災害情報の収集や伝達手段、避難経路の見直しなどを進めている。

▼問 一次避難所は小中学校を基本としているが、足腰の弱い人や小さな子どもを抱えた人のため、地域の公民館などを避難場所に指定しては。

▼答 指定避難所を増やしても、職員の配置や連絡など十分な対応が確保できなくなることから、考えていない。

### 防災通信

▼問 災害情報スピーカーが聞こえにくい地域があるが、その対策は。

▼答 住宅地全域で聞こえるよう設置しているが、一部の地域では、山や高い建物に反響したり、天候や自動車の通行などで若干聞きとりにくくなる所がある。

難聴地域の対策として、現地調査を行い、災害情報スピーカーの増設や方向調整などを実施している。

放送が聞こえたときは、窓を少し開けたり、テレビなどの音量を下げるなどの配慮もお願いしたい。

なお、放送内容が電話で確認できるテレホンサービス(☎058・380・5055)も実施している。

▼問 停電が続いた場合、災害情報スピーカーはどうなるのか。

▼答 災害情報スピーカーには、蓄電池が設置されており、停電後約24時間は稼働している。

停電が長引き、災害情報スピーカーが使用できない場合は、広報車での巡回や一次避難所に設置されている地域防災無線などで情報伝達を行う。



災害情報スピーカー

設置し、情報伝達訓練を行っている。

▼答 アマチュア無線クラブは、防災体制強化のため、総合防災訓練などに積極的に協力いただいている。

近年の携帯電話の普及などで、無線利用者の減少やボランティア参加であることなどから、すべての一次避難所にスタックを配置することは困難な状況である。

▼問 ツイッター、スカイプなどのインターネット回線を利用した通信手段を防災対策に取り入れるには。

▼答 ツイッターやスカイプは、携帯電話からも接続でき、テレビ電話機能も使用できるなど通常の情報発信手段としては多くの利点もあるが、携帯電話の基地局が被害を受けた場合には、通信も停止してしまうことや、風評被害や流言の原因にもなりやすいため、その利用は慎重に判断していく。

### 東日本大震災 被災地支援

▼問 市職員を東日本大震災の被災地に派遣し、復興の手伝いをしているが、そこで得た経験を防災対策などに活かしては。

▼答 宮城県塩竈市や岩手県釜石市などに職員を派遣しており、今後の派遣予定を含め、50名を超える職員を派遣する。

すでに派遣した職員による報告会を開催し、他の職員に貴重な経験を伝えており、今後も防災に対する職員の意識啓発につなげていく。



被災地での給水活動(岩手県久慈市)

# 脱原発への考えは

## 自然共生の新しい文明モデルを構築

▼問 市長は、市広報紙で脱原発についてコメントしたが、その考えは。

▼答 東日本大震災を教訓にして、国は脱原発と自然エネルギーの開発により、自然共生の新しい文明のモデルを構築し、それを日本再生戦略として、世界に発信していくべきだと考える。



那加桐野町学習等供用施設の完成予想図

今日、日本の総電力に占める原子力発電のシェアは25%前後であるが、10年計画で太陽光中心の自然エネルギーの開発と

国民的電力消費量の削減を進めていけば、脱原発は十分可能である。

▼問 これから新築する公共施設に太陽光発電を積極的に導入すべきではないか。

▼答 今年度は、那加桐野町の学習等供用施設に太陽光発電を導入予定である。

今後は、国の補助を活用しながら導入を検討していく。

▼問 個人住宅に太陽光発電の導入を促進するため、補助制度を設けてはどうか。

▼答 国のエネルギー政策の動向を十分見極め、助成制度のあり方を検討していく。

▼問 住宅用のLED照明購入に補助制度を設ける考えは。

▼答 LED照明は省エネ効果が高く節電の有効な手段の一つである。

まずは市民に対する啓発が重要と考えているが、助成の仕組みについても研究していく。

## キャラクター戦略

▼問 マスコットキャラクター戦略をどのように考えているのか。

▼答 「元氣な各務原」をイメージする「ららら」、「本の街かかみがはら」推進のため誕生した「ブッキィ」、各務原キ



ムチブランドを全国に広めたことに貢献している「キムチ日本一の都市研究会」所有の「キムぴ〜」と、それぞれの戦略にそって、印象に残るツールとして役立てていく。

## 自転車が走るまちづくり

▼問 自転車利用促進に対する基本的な考えは。

▼答 健康増進のほか、節電や環境対策などの社会的取り組みからも、自動車から自転車にある程度のシフトが見込まれる。都市ビジョンの一つとして、通勤、通学、買い物など日常的な生活圏における自転車の利用促進が考えられる。

今後は、危険箇所の改善を進め、新たに自転車専用道路の整備を検討したり、公共施設などの駐車場の増設などを中長期的な視野で進める。

▼問 自転車や歩行者に配慮した道路整備をする考えは。

▼答 現在、自転車や歩行者の安全を確保するために歩道幅員3m以上の道路整備を積極的に進めている。

既存の道路でも、歩道と車道の境界ブロックの段差を小さくするなど対応をしている。今後も安心して通行できる自転車歩行者道の整備を推進していく。

▼問 クリーンで健康的な楽しい自転車利用を促進する考えは。

▼答 楽しい自転車利用としては、国が河川環境楽園、かさだ広場周辺に自転車の乗り入れが可能な遊歩道の整備を進めている。

市では、かさだ広場から勤労青少年運動場までのルート整備に向け、地元調整を行っているほか、羽島用水の上部や桜回廊計画で植樹した境川の堤防沿いのルートが利用できる。



かかみ野朝市 (鷺沼各務原町)

### 農業の現状と将来

▼問 市の農地面積と従事者の状況は。

▽答 農地面積は1580haで、そのうち水田は680ha、畑は900haである。

農業従事者は約3600人で、平均年齢は約56・4歳である。

▼問 農業の現状と今後の取り組みは。

▽答 農業従事者の高齢化、後継者不足、遊休農地の増加など農業を取り

巻く現状は厳しくなっている。

市では農事改良組合や農業委員会を通して、農地の利用集積を図るなど経営規模の拡大を進め、県やJAなどと連携して経営改善と担い手の育成や確保に取り組んでいる。

▼問 高齢化している農業従事者をどう応援するのか。

▽答 毎週開かれている「かかみ野朝市」、「おしま朝市」やJAファーマーズマーケットの「菜々の里」への出荷を呼びかけ、生産意欲の向上、生きがいづくりにつながるよう支援している。

### 市民活動 不慮の事故対応

▼問 市民のボランティア活動中の不慮の事故に対する対応は。

▽答 市と協働するボランティアの活動には、必

要な保険に加入している。

▼問 自治会振興交付金制度の有効な活用の啓発と周知は。

▽答 自治会振興交付金制度の趣旨、概要は、自治会長の手引きに記載し、啓発、周知に努めている。

交付金を自治会活動のサーティーネットとして自治会の保険加入費に活用することは可能であり、有効な活用として啓発していく。

### 指定管理者制度の運用

▼問 指定管理者制度導入によるコスト削減の状況は。

▽答 平成16年度に高齢者いきがいセンター稲田園を皮切りに、90施設に制度を導入した。

今年度までに総額1億9000万円余を削減できる見込みである。

### 消防団

▼問 指定管理者の民間事業者から提案されたサービス向上の事例は。

▽答 市民プールでは、水泳教室の講座を増やすとともに、営業時間の延長を実地している。

また、公共駐車場では、満車空車状況表示板の設置や24時間遠隔管理システム導入など民間のノウハウが活かされている。

▼問 消防団の現状では、仕事などの都合で昼間の火災に対応できない場合があるが、その対策は。

▽答 消防団の平日昼間の出勤率は、低下傾向にある。

大規模火災時には、消防団を支援するため、消防団OBなどで結成された消防ボランティア隊を動員し、対応力の強化を

図っている。

また、地域住民による初期消火活動を強化するため、消防署や消防団が自主防災組織での消火訓練の支援や指導を行っている。

▼問 防火水槽や消防団車庫の地代などに補助を考へてもよいのでは。



防火水槽 (小佐野町)

▽答 古くから個人所有地に設置されている防火水槽や消防団車庫は、自治会と土地所有者との契約や合意の上で設けられたもので、補修や改修は市で行っている。

地代については、地域の様々な事情で借りられており、費用の負担は考へていない。

# 「子どもたちと共に成長しよう」

年を取るごとにボラン  
ティア活動も減り、現在  
は「通学路見まもり隊」の  
一員として活動しています。

初めは社会貢献だと格  
好のいいことを言ってい  
ましたが、今は自分の健  
康維持のために活動して  
います。

先日、見まもり隊の懇  
談会が地元の校区で行わ  
れた折に、青少年市民会  
議推進委員会の方から、  
登下校時の確認、特に不  
審者から子どもたちを守  
る人家が少ない農道など  
は気を付けるようお話が  
ありました。

また、見まもり隊の黄  
色ののぼりが破れたり、色  
があせたり、支柱が折れ  
た物があったら連絡して  
くださいとのこと、今  
までに12本ほど新しい物  
に替えていただきました。  
のぼりがきちんとして  
いると、不審者も現れな  
いし、事故もない。人間  
の心のすき、油断がある

といけないとのことだす。

見まもり隊の隊員証の  
裏に、心得として次のこ  
とが書いてあります。

青少年育成憲章を心が  
け、特に次のことを率先  
して行います。

- ① 子どもたちに進んで声  
かけます。
- ② 子どもたちの手本とな  
る行動をします。

## 市民の声



町日朝沼 坂本 妙子さん

③ 近所の子の顔と名前を  
覚えます。

④ 良いことはほめ、悪い  
ことは叱ります。

最初は無理だと思いま  
したが、今ではほとんど  
実行できているように思  
います。

毎朝子どもたちと接し  
ていると、様々な問題が  
起こります。これでいい  
のか、私の行動が行き過

ぎていないかと悩むこと  
もあります。

私の好意が子どもたち  
の自立心をなくしてしま  
ってはいけないかと心配に  
なる時もありました。校  
長先生に相談し、アドバ  
イスを受けながら、今日  
まで6年間続けてきました。  
子どもたちは、朝の登  
校時は、だいたい同じ時  
間に並んで登校するので  
心配はないのですが、信  
号ない所での飛び出しに  
は気を使います。

また、日が早く暮れる  
冬の下校時は、バラバラ  
で下校する子どもたちが  
心配になり、畑の中や細  
い道路に立つこともあり  
ます。

本当に子どもたちから  
学ぶことがたくさんあり  
ます。また、元氣もたく  
さんもらっています。

年1回ぐらい、他の校  
区との交流会や懇談会な  
どがあると参考になると  
思います。

未来ある子どもたちで  
す。大切に見守っていき  
ます。

## 市議会を傍聴しましょう

次の定例会は、  
8月29日開会予定です。  
会議当日、午前9時30分から  
市役所6階で受付しています。  
詳しくは議会事務局総務課へ



## 議会素描

ならないように気をつけ  
たい。

▼防災・節電に質問が集  
中した6月議会。1日も  
早い東北地方の復旧、復  
興を心から願う。

▼「脱原発」を唱えた県  
内首長としては異例の答  
弁。世界的感覚も求めら  
れるこれからの地方政治。

▼これからの日本の電力  
エネルギー政策は地球に  
優しく安全、安心なもの  
へ向かうべき。我々の生  
活も見直すときが来とい  
る。

▼無理な節電で熱中症に

公園の木陰など、身近  
な避暑地を見つけて涼ん  
でみてはいかがだろうか。  
▼暑く辛い夏がやってき  
たが、被災地のことを思  
えば大したことではな  
い。同じ日本人として被  
災地を応援する気持ちを  
送り続けたい。

- 市議会だより編集委員会
- ◎杉山元則
- 川嶋一生
- 水野岳男、池戸一成、
- 高島貴美子、足立孝夫
- (◎委員長、○副委員長)